

NPO法人School Voice Project

# 2023年度事業計画書



特定非営利活動法人

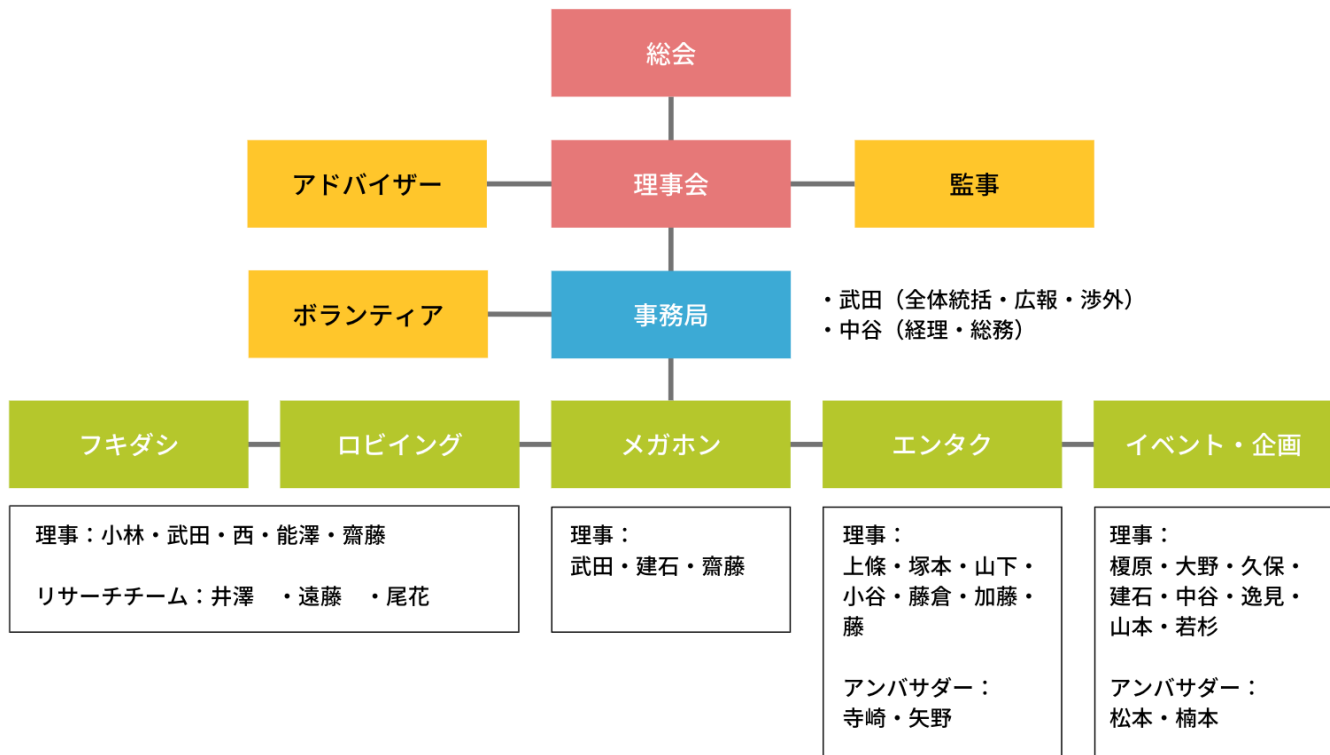
School Voice Project

〒105-0013 東京都港区浜松町2丁目2番15号 浜松町ダイヤビル2F  
MAIL [info@school-voice-pj.org](mailto:info@school-voice-pj.org) | WEB <https://school-voice-pj.org>

- 2023年4月1日～2024年3月31日 -



## ● 組織体制について



### → 事務局体制について

事業規模が2022年度よりも縮小することになるため、非常勤・有給の事務局メンバーを2名に縮小し、事務局が担う業務も縮小。その分、理事等が具体的な実務に参画し、ボランティアベースの活動の範囲を広げていきます。上記の組織図の通り、事業ごとのチームに分かれ、その運営体制を今年度を通じて構築します。具体的には、チームの目標、メンバー、チームリーダーを明確にし、ミーティングを定期化するなどです。

### → ガバナンス・コンプライアンスの強化

求められる社会的責任を果たすため、また寄付を得ながら活動する法人として信頼に足る体制を確立するため、ガバナンス(健全な組織運営を行う上で必要な管理体制の構築)と、コンプライアンス(法令遵守)の現況をチェックし、改善に向けた計画を策定・実行していきます。具体的には、「グッドガバナンス認証」を来年度獲得すべく、2023年度を通じて規定類を整えるなど、獲得要件を整備します。また、理事や職員、「フキダシ」ユーザーや「エンタク」メンバーを守るために必要な体制をつくっていきます。

### → 財政基盤等について

昨年度整備した寄付ページ、「エンタク」の仕組みなどを活かし、積極的にマンスリーサポーター及び「エンタク」メンバーの募集・呼びかけを行い、安定的な財政基盤を拡大していきます。目標は、年度末までにマンスリーサポーター200名、エンタクメンバー200名とします。また、活動資金の確保に加え、これまでの活動成果のPR、「エンタク」メンバーの増加効果も期待し、夏には100万円を目標にクラウドファンディングを実施します。また、教育視察ツアーを年度内に3回実施し、その収益をその他の活動のための費用に充てます。

## ● 事業ごとの計画

## 教職員WEBアンケートサイト・WEBメディア運営事業

### → 教職員を対象としたWEBアンケートサイト「フキダシ」

インターネット上で、教職員に向けたアンケートを毎月1本以上、継続的に実施し、学校教育をめぐるさまざまなトピックについて、現職教職員の意見や思いを収集していきます。今年度からは、これまで以上に、政策提言・ロビイング活動に直接的に生かすことを前提としてアンケートを実施していくことを重視します。

#### 事業Mission / Vision

- ・全国の学校現場で奮闘する教職員の抱えている“見えない思い”を、“届く声”に変換すること。
- ・より多くの教職員に「声が見える化」できるツールとして認知・活用されること。

#### 事業のSVP内での役割

- ・全国の現職教職員のプラットフォームが構築されることで、政策提言・ロビイング活動の武器となる
- ・アンケート結果まとめが「メガホン」のコンテンツになる

#### 今年度のKPI

- ・フキダシユーザー数(2024年3月31日時点): 2,000名
- ・ユーザーの増加数(2023年4月1日～2024年3月31日): 400名
- ・アンケート実施数(2023年4月1日～2024年3月31日): 15本以上
- ・アンケート総回答数(2023年4月1日～2024年3月31日): 1500件以上(平均で100件以上)
- ・3月時点の月間PV: 1万PV

---

### → WEBメディア「メガホン」

「フキダシ」でとったアンケートを公開するとともに、独自コンテンツとして学校現場を元気にする情報、学校教育をめぐる情報の解説、SVPの活動のプロセスや実績等を発信していきます。記事執筆の外注の本数を減らす分、理事等による寄稿記事を増やしていきます。

#### 事業Mission / Vision

- ・教職員の方にとって、共感でき、元気になり、「やってみよう」「またがんばろう」と思えるメディア
- ・学校の外の方にとって、共感でき、発見があり、学校や教職員を応援したくなるメディア
- ・「民主的でインクルーシブな教室や学校のあり方」を伝えていくメディア

#### SVP内での事業の役割

- ・中心的な発信媒体(最も見られるメディア)
- ・広告収入を得られる媒体(収入源となるメディア)
- ・「メガホン」からの遷移により「フキダシ」のユーザー増加、「エンタク」のメンバー増加に貢献する

#### 今年度のKPI

- ・公開記事数: 36本以上(毎月アンケート結果まとめ1本、インタビュー等2本を最低頻度とする)
  - ・公開ラジオ数: 48本以上(月4本)
  - ・公開動画数: 6本(隔月1本) ※ラジオの音声UPを除く
  - ・3月時点の月間PV: 3万PV
-

## 政策提言・ロビイング事業

### → 現場発の政策提言/ロビイング活動の実施

WEBアンケート等で集まった現場教職員の声を踏まえ、記者会見等を行なってメディアに向けた発信をしたり、政党や議員、文科省・教育委員会との意見交換/交渉を実施したりしていきます。

#### 事業Mission / Vision

- ・学校現場の声を活かして制度や世論に影響与え、教職員の“変えていける実感”を醸成する。

#### 他事業との連携・相互影響

- ・メディア露出機会の増加や、事業の公益性の認知向上などにより「フキダシ」のユーザー、「エンタク」のメンバー、寄付者の増加に貢献する

#### 今年度のKPI

- ・政策提言書を5本完成させ、公式Webサイトやメガホンにて公開(1.新年度準備を十分に / 2. SSW増員 / 3. インクルーシブ教育推進 / 4. ICT環境 / 5. 若手・初任者支援)
- ・新年度準備を十分にキャンペーンに関し、10以上の教育委員会に陳情 or 請願を行う

---

## 教職員コミュニティ構築事業

### → 教職員・元教職員を対象としたオンラインコミュニティ「エンタク」

全国の教職員がつながりエンパワーし合うためのオンラインコミュニティ「エンタク」を運営し、チャット上でのコミュニケーションを活性化するとともに、オンラインイベントの開催を定期的に行います。

#### 事業Mission / Vision

- ・教職員が思いを共有できる仲間を得、交流の中でエンパワメントが起きること。
- ・教職員が半径1m(教室や職場)を変えていく後押しになること。

#### 他事業との連携・相互影響

- ・SVPの活動と理念に共感し、協力と参画をしてくれる仲間が「エンタク」が増えていくことで、「フキダシ」のアンケート回答数が増える、広報力が高まるなどの効果を生み出す
- ・マンスリーの会費によって安定的な財源を生み出す

#### 今年度のKPI

- ・メンバー数(2024年3月31日時点):200名
- ・メンバーの増加数(2023年4月1日~2024年3月31日):120名
- ・月間メンバー“熱量”平均(OSIROのシステムで計測可能):200(現在およそ100)

---

## ワークショップ・イベント事業

学校教育をめぐるさまざまなテーマについて発信するとともに、全国の教職員や学校教育に関心を寄せる市

民が交流し学ぶことができるイベントを実施していきます。

### → SVP全国キャラバン(対面・ローカルイベント)

「エンタク」のメンバーが直接リアルで会える機会づくりと、新たな仲間づくりを目的に、全国さまざまな場所で、現地の理事や「エンタク」メンバーがホストとなり、対面ローカルイベントを開催していきます。現状、大阪、福島、九州、関東、北海道などでの開催が決まっています。

### → 理事や「エンタク」メンバーによる多様な企画をフレキシブルに実施

SVPIに集う人たちの問題意識やニーズ、興味関心を出発点にして、企画を立案、実施していきます。同時に、スムーズな運営・開催のために、これらの持ち込み企画をSVPが主催・共催するに当たってのガイドラインを策定します。

### → 議員向け勉強会

不定期で、多様なテーマで勉強会を実施していきます。参加者をFacebookグループに招待することで、連携・情報交換できる議員の方を面化し、徐々に増やしていきます。

### → 海外教育視察ツアー

「エンタク」のメンバーや「フキダシ」のユーザーへの特典及び関係を深める機会として、また全国の教職員や学校教育に関心を寄せる市民の方への学びの機会提供として、海外視察ツアーを実施します。2023年度は8月に韓国、1月にデンマーク、3月にポーランドツアーを実施予定です。

#### 事業Mission / Vision

- ・教職員はもちろん、すべての市民が、学校教育に対して当事者意識を持ち、それを強めることができる機会をつくり出すこと。

#### 他事業との連携・相互影響

- ・企画を通して団体の認知度を高め、共感者を増やすことで、「フキダシ」のユーザー、「エンタク」のメンバー、寄付者の増加に貢献する
- ・イベント等の企画で収益を出し、それを団体活動費として活かす

#### 今年度のKPI

- ・オンラインイベント参加者数:500名以上
- ・対面イベント参加者数:150名以上

---

### 番外編:株式会社Yogiboとのタイアップ企画「#学校の居心地プロジェクト」

子どもも大人も居心地のよい学校づくりを進めるため、現場と連携した試行実験や情報発信を行う「#学校の居心地プロジェクト」を株式会社Yogiboの協賛のもと、スタートしました。2023年度中に実証実験協力校の募集・選考を終え、2024年度は本格的に実証実験を開始するとともに広報・PRを行っていきます。



---

日本の学校が、子どもたちにとってより幸せで多様性を受けとめられる場所になるためには、人間関係や学習方法ももちろんで、物的・空間的な環境をどう組み替えていくか、という視点も大切です。このプロジェクトでは、以下の取り組みを行います。

1. 全国から公募した5つの学校のさまざまな場所(教室、職員室、廊下、図書室、保健室、相談室など)にYogiboを設置。子どもたちや先生たちの、心や、学び、関係性にどんな影響を与えるのかを探ります。
2. 上記の検証結果や「(物理的・空間的な意味での)居心地」に特化した取材記事をWebメディア「メガホン」で随時発信。学校運営に「居心地」という概念が浸透することを後押しします。
3. 「学校の居心地」をテーマとしたイベントを開催。Yogibo設置の検証結果の報告や、全国での先進事例のオンラインイベントで紹介し、居心地のよい学校づくりの機運を盛り上げます。

このプロジェクトの実施によって、学校における「物的・空間的環境」「居心地」について考える機会を、検証校をはじめとする全国の学校現場に届けることを目指します。